

令和 4 年 6 月 20 日現在

機関番号：13701

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K04854

研究課題名(和文)21世紀型能力に基づく芸術教科のカリキュラム構築に関する研究

研究課題名(英文)Study on curriculum construction of art subjects based on 21st century type ability

研究代表者

松永 洋介 (MATSUNAGA, Yousuke)

岐阜大学・教育学部・教授

研究者番号：90324277

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 700,000円

研究成果の概要(和文)：国際バカロレアにおける芸術分野の音楽領域におけるカリキュラム構築は、MYPの場合、聴覚を通じた知覚と感受をもとに行われるものである。その際にテーマとなりうる単元は、他教科・領域との関連を持たせることにより、生徒の探究活動を促すことができる。その際にはまず、音楽の文化的側面に着目し、音楽の持つ歴史や文化を理解することが重要である。次に音楽を聴くことによって得られるイメージと、そのイメージを生み出す基盤となる音楽的要素との関係を整理することによって生徒の音楽活動を促すことが可能となる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

今回の研究については、特に今後日本国内で増加することが予測される国際バカロレア(IB)の教育課程を導入する際に課題となる、学習指導要領と国際バカロレア機構が示す教育課程との整合性について参考となる考え方と実例を、芸術科(音楽)において示すことができたと考える。また、今回は中等教育課程(MYP)を中心に研究を行ったが、初等教育課程(PYP)との接続や、大学受験資格課程(DP)への接続に関しても、一貫性を持った教育課程の開発に資することのできる考え方を示すことができたと考える。

研究成果の概要(英文)：The curriculum construction in the music field of the art field in International Baccalaureate, in the case of MYP, is based on perception and perception through hearing. Units that can be themes at that time can encourage students' exploratory activities by relating them to other subjects and areas. In doing so, it is important to first focus on the cultural aspects of music and understand the history and culture of music. Next, it is possible to encourage students' musical activities by organizing the relationship between the image obtained by listening to music and the musical elements that form the basis of that image.

研究分野：音楽教育学

キーワード：国際バカロレア MYP Music 授業 Arts

1. 研究開始当初の背景

申請者はこれまでに音楽の創作領域を中心に研究してきた。音楽創作は児童生徒が、自らの音楽的アイデアに基づいて主体的に取り組む。そこには創造性とグループによるコミュニケーションが必要とされる。これは今後の学習で必要とされる「21世紀型スキル」を含んでいるといえる。

「21世紀型スキル」とは、アメリカの教育団体「ATC21s」(The Assessment and Teaching of 21st-Century Skills)が提唱する概念で、これからのグローバル社会を生き抜くために求められる一般的な能力を指すとされている。その中では、批判的思考力、問題解決能力、コミュニケーション能力、コラボレーション能力、情報リテラシーなどが挙げられている。

申請者は研究対象を「21世紀型スキル」におくことを考えていたときに、国際バカロレア(International Baccalaureate、以下IBと記す)の教育プログラムがこれに共通していると考え、IBにおいて音楽がどのように扱われているかを研究の対象とするようになった。

なお、IBには2つの側面がある。第一に大学入学資格としてのIB、第二に教育プログラムとしてのIBである。本研究では2つ目が意味する教育プログラムとしてのIBを対象とする(以下これをIBプログラムと記す)。

現在、IB教育に関する研究では数学や科学などの理数系教科、及び国語や社会などの文化系教科についての論文は発表されているが、芸術領域に関する論文はほとんどない。特に音楽についてはカリキュラム上では芸術科の中に位置づけられ、各校で実践が行われながらも全く研究内容が外に出てこない状況であった。

2. 研究の目的

1に述べた背景を踏まえ、本研究では、21世紀型能力に基づく芸術教科の在り方について、まずIBで行われる音楽の授業を調査分析することを計画した。そして、そこから「21世紀型能力に基づく芸術教科のカリキュラム構築に関する研究」を目的とした。

3. 研究の方法

当初の計画は以下の通りである。当初と述べたのは、コロナウイルス蔓延により計画修正を余儀なくされたからである。まず初期の計画を示す。

研究方法としてはIBプログラム実施校の見学、IB関係の資料の収集および分析、プラン作成による実験授業の3つを中心に行うことを立案した。

1年目はIBプログラム実施校の見学を中心とし、同時にIB関係の資料を行った。

2年目はIBプログラム実施校の見学に加えて、IB機構の本部があるジュネーブ、及び事務局があるカーディフ(英国)にて関係者と意見交換を行うことを予定した。

3年目は、実際の有効性を確かめるための授業実践を行うことを計画した。また、シンポジウムを開催し、世間に広報することを意図している。さらに報告書を作成し公開することで、成果を広く知らせる予定であった。

しかしながらいくつかの問題が発生したために研究方法を変更することを余儀なくされた。

まず、2年目に計画したIB機構本部への訪問である。これについてはカリキュラム研究をするのであれば、実際にカリキュラム作成の中心となっているハーグ(オランダ)の方が適しているという助言があり、行先を見直した。助言していただいたのはキャロル・犬飼・ディクソン氏で、かつてハーグの事務局に勤務していた。現在は筑波大学客員教授であると同時に、当時は日本国際バカロレア教育学会の会長であった。そこで3年目に訪問することに計画を変更した。そこに遭遇したのがコロナウイルスによる渡航制限である。このため渡航はさらに延期せざるを得ない事態となった。その間、国内でできることを行うことにした。

そこで、実際に行った内容を以下に示す。

(1)1年次(2017年度)

まず、大阪教育大学附属池田中学校(大阪)を訪問し、授業見学とともに、研究の概要について担当教諭(音楽科:内兼久秀美教諭)より示唆を得た。

また、国際バカロレア機構が実施する指導者認定ワークショップ(DP、カテゴリー2)へ参加し、DPコースにおけるカリキュラム構成の実際と、大学入学資格としてのディプロマの状況を理解することができた。

(2)2年次(2018年度)

IB本部への見学とともに現地校の訪問を計画していた。しかし国際バカロレア教育学会前会長より、カリキュラムの研究であれば事務局が置かれているカーディフよりもハーグの方がよいという助言があり、行先を変えるべく調査を始めた。そのため、渡航は1年延期することにした。

(3)3年次(2019年度)

本来ここで研究機関は終了する予定であった。しかしコロナのために海外訪問ができず、1年延期の申請を行った。

(4)4 年次(2020 年度)

コロナウイルス、オミクロン株の流行により、全く海外への渡航が困難な状況が続いたため、もう1年延期の申請を行った。

(5)5 年次(2021 年度)

コロナウイルス流行の3年目に入ったが、海外調査の可能性は困難なままであり、当分この状況が続くと考え、研究をいったんできる範囲での内容にとどめることにした。

まず大阪教育大学附属池田中学校の授業計画に参画すると同時に、研究授業を見学し、協議会において助言者を務めた。また、国際バカロレア機構が主催する指導者認定ワークショップ(MYP、カテゴリー1)に参加し、授業計画の立て方やカリキュラム構成について学ぶことができた。

さらに成果発表の場として「IBMusic シンポジウム」を開催した(オンライン、2022年2月12日)。この成果報告書は近日中に IB コンソーシアムを通して公開予定である。

4. 研究成果

本研究の成果は学会発表及び論文として下記の通り公開した。

(1)研究発表

松永洋介「MYP における音楽授業の評価についての一考察」第3回日本国際バカロレア教育学会全国大会(岡山大学) 2018年9月8日

松永洋介「国際バカロレア芸術(音楽)における授業構成の原理 「計画」「授業」「評価」の3つのカリキュラムに焦点を当てて」第49回日本音楽教育学会(岡山大学)2018年10月7日

松永洋介「国際バカロレア(芸術・音楽)における学習指導案の思想 ユニットプランナーの分析から」第50回日本音楽教育学会(東京藝術大学)2019年10月19日

松永洋介「国際バカロレア MYP の音楽カリキュラム インターナショナルスクールを比較して」日本音楽教育学会第51回大会(オンライン)2020年10月17日

松永洋介「一条校における国際バカロレアプログラムの適用条件 音楽科の授業を展開するための原理の探究」日本音楽教育学会第52回大会(オンライン・京都教育大学)2021年10月17日

(2)論文

松永洋介(2017)「国際バカロレア芸術カリキュラムにおける音楽科の特質 中等教育課程(MYP)を対象として」『学校音楽教育実践論集』第1巻、日本学校音楽教育実践学会、p. 77-78

松永洋介(2019)「国際バカロレアにおける芸術科の特質 中等教育課程(MYP)における音楽とダンスとの比較を中心に」『岐阜大学教育学部研究報告(人文科学)』第65巻第1号、pp. 41-49

松永洋介(2021)「国際バカロレア MYP の音楽カリキュラムについての一考察 日本とオーストラリアのインターナショナルスクールを比較して」『岐阜大学教育学部研究報告(人文科学)』vol. 第69巻第2号、pp. 43-52

松永洋介・安江真由美(2021)「リン・エリクソンの教育思想における「概念」の検討 国際バカロレアにおける概念型の授業を対象に」『岐阜大学教育学部研究報告(人文科学)』第70巻第1号、pp. 51-58

また、現在 IBMusic シンポジウム報告書を作成中である。これは国際バカロレアコンソーシアムのHPより公開される予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 松永洋介	4. 巻 Vol.69、No.2
2. 論文標題 国際バカロレアMYPの音楽カリキュラムー日本とオーストラリアのインターナショナルスクールを比較してー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 岐阜大学教育学部研究報告（人文科学）	6. 最初と最後の頁 pp.43-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 松永洋介	4. 巻 68-1
2. 論文標題 国際バカロレアにおける芸術科の特質 - 中等教育課程（MYP）における音楽とダンスとの比較を中心に -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 岐阜大学教育学部研究報告（人文科学）第68巻1号	6. 最初と最後の頁 41-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 松永洋介
2. 発表標題 国際バカロレアMYPの音楽カリキュラムーインターナショナルスクールを比較してー
3. 学会等名 日本音楽教育学会第51回大会オンライン大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松永洋介
2. 発表標題 国際バカロレアにおける芸術分野（音楽）の意義
3. 学会等名 第4回日本国際バカロレア教育学会全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松永洋介
2. 発表標題 国際バカロレア（芸術・音楽）における学習指導案の思想ーユニットプランナーの分析からー
3. 学会等名 第50回日本音楽教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松永洋介
2. 発表標題 MYPIにおける音楽授業の評価についての一考察
3. 学会等名 第3回日本国際バカロレア教育学会全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松永洋介
2. 発表標題 国際バカロレア芸術（音楽）における授業構成の原理
3. 学会等名 第49回日本音楽教育学会全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松永洋介
2. 発表標題 国際バカロレア芸術分野における経験主義
3. 学会等名 日本音楽教育学会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------